



文化の秋

～歴史を学びに、ちょっと遠くまで～

八溝山周辺地域定住自立圏 文化財めぐり

文化財めぐりに出かけましょう

八溝山周辺地域定住自立圏の各市町「イチオシ文化財」を紹介します。ぜひ、訪れてみてください。場所や交通手段など、詳しくは各市町にお問い合わせください。

三森家住宅 (那須町大字伊王野3111-1)



三森家は、伊王野地区の下平にあります。ここは、中世以降の関街道が通っていたところで、丘陵を背にして南向きのやや高台に長屋門と主屋が建てられています。主屋は茅葺き平屋の寄棟造りで、間口約22m、奥行き約10mあります。この地方では、規模が大きく、民家として代表的な建築物です。主屋・長屋門は、いずれも国の重要文化財に指定されています。

■問合せ 生涯学習課文化振興係 ☎72-6565

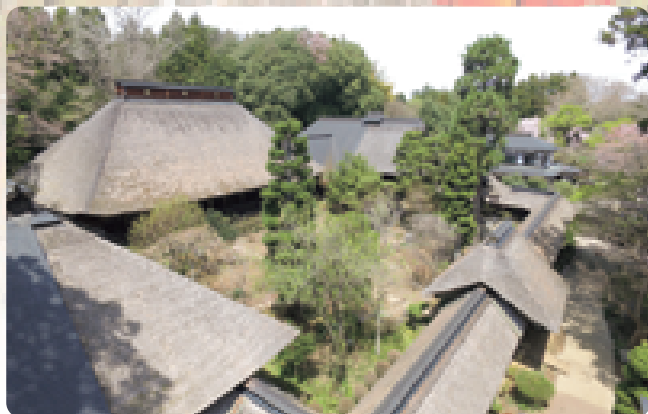
唐御所横穴 (那珂川町和見2538)



国指定史跡で古墳時代後期の墓です。内部は一戸の住宅を思わせるような構造で、天井には棟木が表現され、勾配をもたせるなど、精巧さでは全国屈指といわれています。江戸時代には水戸光圀公が見学したとも伝えられ、周辺にも同時期の横穴墓が86基確認されています。

■問合せ 生涯学習課文化振興係(なす風土記の丘資料館) ☎0287-96-3366

大雄寺 (大田原市黒羽田町450)



大雄寺は、応永11年(1404年)に開山されたのが始まりといわれ、領主であった大関氏の菩提寺として庇護されてきました。中心となる本堂の建設は、17世紀にさかのぼると推測され、大規模な曹洞宗本堂の様式がよく残されています。茅葺建造物群からなる大雄寺の主要部は本堂から廻廊にいたるまで全体が簡明に統一されており、近世曹洞宗寺院の典型の一つを示していると考えられています。

■問合せ 文化振興課文化財係 ☎0287-23-3135

旧青木家那須別邸 (那須塩原市青木27)



明治時代にドイツ公使や外務大臣を歴任した青木周蔵子爵が開設した農場内に建てられた白亜の洋館で、国指定重要文化財です。

平成30年に認定された「日本遺産」の構成文化財にもなっています。

建物に向かう杉並木は一見の価値ありです。

■問合せ 生涯学習課文化振興係 ☎0287-37-5419